

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	59	大学等名	山形大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本事業の特徴は、ディプロマ・ポリシー（DP）を学力の3要素に則って、「学問基盤力」（知識・技能）、「実践・地域基盤力」（態度・判断）、「国際基盤力」（語学と国際理解）に構成し直し、これらをアンケート等の主観的方法ではなく、客観的に測定する「基盤力テスト」を開発・実施することで、学生の学力をDPとの関連の上で可視化し、これを質保証のエビデンスとして用いるという点にある。DPに記載された学力を評価する「基盤力テスト」を基軸として、学内の教育改革を行おうとしており、大学全体の改革が加速されたものと評価できる。
- ・学内の実施体制については、学内の各組織で相互連携を図りつつ、それらの上位組織を学長が統括する機能的な体制を整えており、評価体制についても自己評価及び外部評価を適切に実施する体制が整備されている。また、「基盤力テスト」等のエビデンスを基に、PDCAサイクルを回す機能も整っていることから評価できる。
- ・取組は平成28年度に基本的な準備を終えており、平成29年度以降はその発展が期待できる。また、体制的にも資金的にも計画が続行できる準備が整えられていることから評価できる。
- ・山形大学で開発された「基盤力テスト」は、汎用性・応用性が極めて高いものと思われ、これらが、山形大学が行ってきたEM-IR勉強会や、大学間連携共同教育推進事業、FDネットワークつばさ等を利用して他大学に紹介され、その活用が広まっていくことが期待でき、評価できる。

<改善を要する点>

- ・平成30年度と31年度の事業計画が概括的すぎる。中間評価調書において具体的な見通しがより体系的に記述されていれば更によかったと思われるため、検討する必要がある。